

今日のトピック **メキシコ中銀が4会合連続で利上げ インフレ高止まりの長期化を警戒**

ポイント1 政策金利を5%に引き上げ

- メキシコ銀行（中央銀行、中銀）は11月11日に金融政策決定会合を開き、政策金利を4.75%から5.0%に引き上げました。中銀による利上げは今年6月以降4会合連続となり、高止まりが長期化しているインフレへの中銀の警戒感を示す結果となりました。

ポイント2 景気は回復、インフレの高止まりは長期化

- 新型コロナウイルスのデルタ型の感染拡大から、メキシコの2021年7-9月期のGDP成長率は前期比▲0.2%となり、大方の予想を下回りました。しかし足元では、感染拡大の収束や重症者数の減少から、景況感や雇用環境は再び回復傾向が鮮明になっています。
- 一方、エネルギー価格の上昇に端を発したインフレ圧力の高まりは、レジャーや日用品、衣料品など幅広い分野に広がっており、予想外の物価の高止まりが長期化する蓋然性が高まっています。弊社でも、2021年の消費者物価指数の上昇率予想を+6.6%に、2022年の予想を+3.8%にそれぞれ引き上げました。

今後の展開

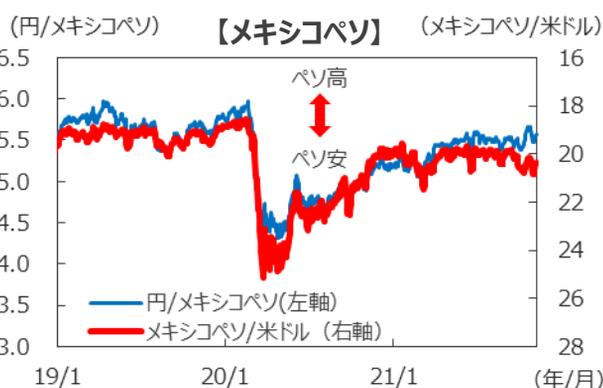
メキシコペソは堅調も、 諸外国の金融政策には注意

- インフレ高止まりの長期化から、中銀は今後も金融引き締めを継続するものと思われます。政策金利は来年にかけて更に1%引き上げられ、2022年中には6.0%まで上昇するものと予想しています。景気回復と金融引き締めを受けた短期金利の上昇から、メキシコペソは安定した推移が続くそうです。また、原油価格の上昇も、資源国通貨であるメキシコペソには追い風となりそうです。
- 一方、米国をはじめとする諸外国の金融政策には注意が必要です。高水準のインフレを顧みず政治主導で大幅な金融緩和を続ける新興国もあり、米国における金融政策の変更をきっかけに市場全体の変動性が高まるような局面では、メキシコを含む新興市場全体が動揺する可能性があり、注意が必要です。



(注) 政策金利は2019年1月1日～2021年11月11日。
消費者物価は前年同月比、2019年1月～2021年10月。

(出所) FactSet、メキシコ中央銀行のデータを基に
三井住友DSアセットマネジメント作成



(注1) データは2019年1月1日～2021年11月11日。

(注2) メキシコペソ/米ドルは逆目盛。

(出所) FactSetのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ここも チェック!

2021年10月 1日 **メキシコ中銀が政策金利を引き上げ**
2021年 8月16日 **メキシコ中銀は政策金利を引き上げ**

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。